

指静脈認証と連携した映像記録システムで フィジカルセキュリティの強化を実現

課題

社員証紛失のリスク低減とセキュリティ強化に向け生体認証の導入を模索

解決

日立の指静脈認証装置と防犯カメラを組み合わせた新システムを導入

効果

利便性とリスク低減を両立。PCI DSS※1 認定取得に向けた基盤としても貢献

※1 Payment Card Industry Data Security Standard

カードなしでもセキュアな入退室管理を実現したい

北海道旭川市に本社を構える株式会社日専連旭川(以下、日専連旭川)は、創業82年の歴史を誇る地元根ざしたクレジットカード会社です。道北一円を営業エリアに、クレジットカード事業のほか、キャッシング事業、携帯電話事業、レンタル事業などを手がけており、お客さまの大切な情報を守るため、セキュリティの強化に日々取り組んでいます。

日専連旭川は2007年よりICカード社員証による入退室管理システムを導入。機密情報の漏えい防止に努めてきました

が、2016年3月に指静脈認証による入退室管理システム「SecuaVein Attestor」^{セキュアベインアテスタ}と防犯カメラをリンクさせた新セキュリティシステム※2を導入しました。その経緯を専務取締役の浜岡 雄史氏は「物理的媒体であるICカードのみの認証では、貸し借りによるなりすましや、紛失時に悪用されるなどのリスクがどうしてもつきまといま。当社では写真付き社員証をIDカードとしてPCログインにも活用しているため、紛失すれば再発行に時間がかかるだけでなく、IDカードの無効化やアクセスログの確認など、運用面でも大きな負担が発生することも課題となっていました。そこで、ID

カードなしでもセキュアな個人認証が行える生体認証の導入に合わせ、従来は“入室”のみのチェックであった運用を“退室”と、防犯カメラによる“内部監視”も含めた体制に強化していく新システムの導入を決断したのです」と語ります。

※2 株式会社 日立産業制御ソリューションズが開発・提供。システム提案と構築・保守サポートは株式会社北海道日立システムズが担当

入退室履歴とリンクした映像がエビデンスに

日専連旭川のシステム要件に応えたコンペティションでは3社が提案を行いました。

特長1 連携による管理強化

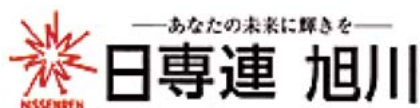


指静脈による生体認証
生体内部の指静脈パターンを利用して個人を特定する生体認証です。偽造が極めて困難、認証精度が高いなどの特長があります。

特長2 IDカードを持ち出さない運用



指静脈による入退室管理と映像記録の連携



株式会社 日専連旭川

所在地 北海道旭川市2条通8丁目144番地
 創立 1935年7月
 資本金 90,262千円(2016年3月31日現在)
 従業員数 119名(2016年3月31日現在)
 事業内容 クレジットカード事業、キャッシング事業、
 携帯電話事業、レンタル事業、駐車場業務



「どのベンダーさんも生体認証と防犯カメラの連携という要件は満たしていましたが、数ある生体認証の中でも指静脈認証が最も使いやすく、利便性が高いことが大きなポイントとなりました。防犯カメラとの連携についても、他社は“これから作り込む”というレベルでしたが、日立さんはすでにプロトタイプを開発中で、当社の要望に応える機能を盛り込んでいただける点を高く評価しました」と語るのは、総務管理統括本部執行役員 総務部 部長の前田 昌己氏です。

日専連旭川の本社ビル内に導入された「SecuaVeinAttestor」端末は、指静脈に加えICカードやテンキーによる認証も可能です。あるユーザーのIDで入室したとき、複数人で入室してしまうと、入室記録がない人は退室できなくなるアンチパスバックの提供により、より厳格なセキュリティの実現につながる点が大きなポイントとなっています。また、日立独自の高圧縮処理技術に対応したネットワーク型防犯カメラと、高性能映像配信サーバを連携した録画システムにより、低コストにもかかわらず長時間記録と高画質表示の両立を実現しているのも特長です。

「現在は既存のIDカードも外部に持ち出さないことを前提に、オフィス内の入退室管理やPCログオンで併用していますが、本社ビルに入る際は指静脈認証に限定しているため、不審者が入るリスクとカードの紛失リスクを極小化することができました。万一問題が起こった際も入退室履歴とリンクした防犯カメラ映像が管理端末からすぐに確認できるため、誰がいつどの部屋にいたのか、もしくはいなかったのかという証明と、迅速なア



クションが行える環境が整いました」と、監査部 部長代理の大野 貴則氏は高く評価します。

PCI DSS認定取得に向けた基盤としても有効活用

導入メリットについて浜岡氏は「もともと社員教育などでセキュリティの重要性を周知徹底していました。しかし今回、指静脈認証による個人の特定と防犯カメラの映像が加わったことで、基本的なルールの順守と運用に向け、社員のセキュリティ意識がさらに向上できたと考えています。IDカードも併用しているビル内の入退室やPCログインについても、将来的には指静脈認証に統一することを検討しています」と語ります。

大野氏も「銀行や取引先のお客さま、監督官庁の方々などが本社に来られた際、“すばらしいセキュリティ体制ですね”とお褒めの言葉をいただくようになりました。当社が情報漏えいを起こさないためにしっかり取り組んでいる様子を、内外のステークホルダーの皆さまにアピールできている点もうれしい効果の一つです」と評価します。

現在クレジットカード業界では、会員情報を安全に取り扱うことを目的に策定さ

れたPCI DSS認定への対応が大きな注目を集めています。厳しい審査で知られるPCI DSS認定の取得には、安全なネットワークの構築と維持、セキュリティポリシー整備のほか、生体認証などによる強固なユーザー認証の導入などが重要な要件として挙げられています。

「システムを検討していた段階では、当社にとってセキュリティレベルがやや高すぎるのではないかという意見もありました。しかし近年クローズアップされてきたPCI DSS認定の要件に照らし合わせてみると、今回のシステムに実装される機能が、まさに必要不可欠なものだということがわかったのです。今は2018年3月のPCI DSS認定取得に向け、ネットワーク強化やプログラムの整備も含め、日立さんに相談にのっていただくことで、安心してプロジェクトを進めることができている」と前田氏は笑顔を見せます。

今後、日立グループは日専連旭川が進めるセキュリティの強化に加えて、業務改善や経営課題の解決につながるソリューションが構築できるフィジカルセキュリティ統合プラットフォームを活用し、日専連旭川の企業価値を高める提案を行っていきます。

お問い合わせ先

(株)日立製作所 産業・流通ビジネスユニット
 (株)日立産業制御ソリューションズ

■ 情報提供サイト

<http://www.hitachi.co.jp/bouhan/>
<http://www.hitachi-ics.co.jp/product/virsecur/vein/sv01.html>
<http://www.hitachi-ics.co.jp/product/pss/> はいたつく 2017.6